

2024年度第2回東京都教職員欠員・未配置（9～11月実施）状況調査まとめ

【調査期間】2024年9～11月 【調査対象】都内公立義務制学校 教職員

【回答数：176回答】

【校種内訳】小学校113 中学校56 その他7（区立養護・小中一貫・不明等）

この結果をもとに、引き続き未配置解消のための運動を行います。ご協力ありがとうございました。

2024年12月 分会配布用討議資料 東京都教職員組合

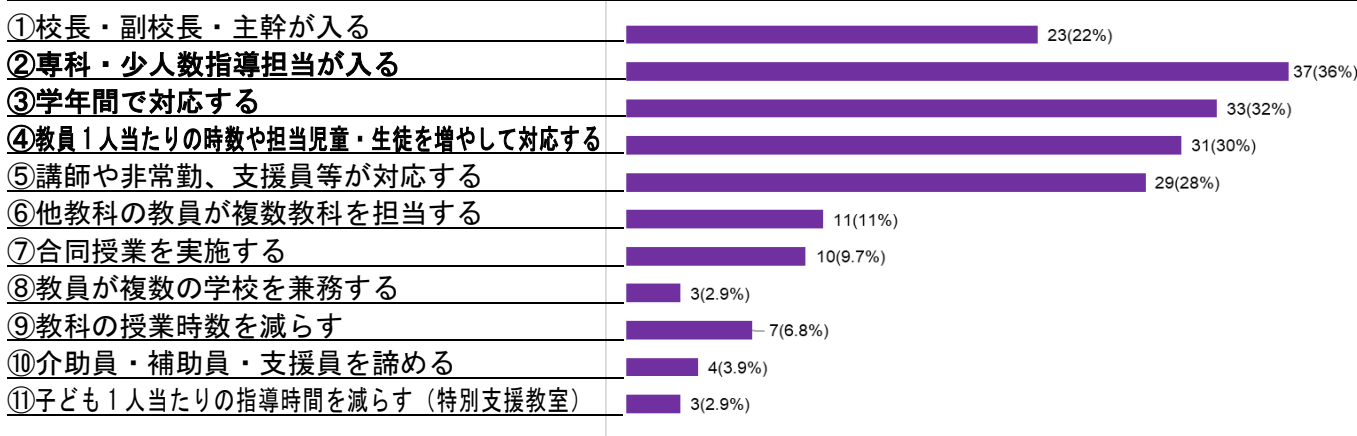
このままでは学校がもたない！教職員の労働条件改善と定数増はまったなし！

***9月1日時点の未配置・未充足について 都内およそ1900校中176校からの回答**

◆職種・担当別 ◆ 単位:人

通常学級担任・副担任 (産代含む)	特別支援 (固定・教室・ 通級、教員)	専科 (算数少人数・ 図工・音楽・ 家庭科・英語)	養護教諭	事務職員	管理職	計
73	7	22	1	1	3	107

問.9月1日時点での校内対応に当てはまるものに○をお付けください（複数回答可）103回答



昨年度との比較

- ・通常学級担任・副担任（産代含む）の未配置が大きく増加。（昨年50校22% →2024年9月1日調査73校41.5%）
- ・他教科の教員が複数教科を担当すると回答した学校の割合が2倍に増えた。（昨年は4校3.3%）

問. 欠員・未配置によって生じた問題（働き方、児童生徒への影響等に関して）があれば詳しくお書きください。（一部抜粋）69回答

子どもの教育活動にしわ寄せ 安心・安全と学ぶ権利の保障を

●まっさきに少人数指導（習熟度別）、専科授業を削減。子どもの学びへの影響、専門的学習の機会損失が深刻。教育活動の保障を

- ・教員が減っている状況のため他の教員に負担がかかっている。数学科に関しては2つの学年において、申請しておりやることになっているはずの習熟度別少人数授業が実施できていない。
- ・少人数授業ができない事で、生徒への影響あり。それに伴う時間割変更。休み時間の見守りをやってもらっていたので、それが対応できず他の教員への負担。部活動顧問（野球部）が1人減ることになり、もう1人の顧問が1人でこなすことの負担大。
- ・本来なら軽減されるはずの時数が軽減されず、その教員に負担がかかる。本来なら学力向上専門員が算数授業に補助で入ることになっているが、入ることができず、児童の学力向上につながっていない。
- ・細やかな指導をする時間が削られている。
- ・少人数授業が行えていない。
- ・少人数授業がクラス授業になり、ついていけなくなる生徒が出ている。
- ・数学科の講師が見つからず、少人数ができない。

- ・算数少人数の人が産休に入ったが、代替が見つからず、少人数の授業はやれていない。
- ・算数の少人数指導をできない学年がある。
- ・十分な学習指導ができない。
- ・算数専科がないため、レディネスやベーシックテストの実施が遅れてしまっている。
- ・少人数授業の実施が不可能になり、数学は現在単級授業。
- ・算数少人数が5年生以外は2展開となっている。
- ・算数の少人数指導ができなくなった。児童への影響が大きい。また、他の教員の校務分掌の負担が増えた。
- ・主幹が担任に入ったため、算数少人数でのークラス当たりの人数が増えた。
校務分掌は、他の職員で協力して対応している。
- ・高学年の算数が少人数からクラスが変わった。今後、5年担任も産休に入るため、更に欠員が出る可能性がある。
- ・少人数算数授業の中止
- ・6年生は3クラスあり、そのうち1名が4月から休みにになった。6年生の先生方はもちろん専科教員など負担感が増した。2学期からは算数専科が担任として配置転換された。特に算数の学力への影響が心配される。
- ・専科教員が担任を兼務するので、専科の時数が減った。かつ、専科教員がもつ質の高い授業力を生かせず、準備もできない状況。
- ・当面、2学期は家庭科の授業はやらず、技術の教科を行っている。3学期に詰込み授業にならないか心配。
- ・部活指導担当不在 学年の仕事の負担増加 美術の授業の欠課
- ・家庭科専科教員が年度途中で交代になった。
- ・体育の教員が体調不良で不在となり、体育が出来なくなりました。学年の教員で、ダンスなどの映像でできる授業を行いました。その後、特別支援学級や体育の免許も持っている教員が授業できるように時間割が再編成されました。
- ・理科専科の教員が少人数算数を担当することになり、理科は担任がやることになった。

●教職員の入れ替わり立ち代わりで落ち着いた教育環境が保障できず、いじめ等学級の荒れにつながる

- ・児童が不安定になる。学年の職員がフォローに回る関係で、遅くまで残ったり空き時間を削ったりすることになる。
- ・担任に入った理科専科は、1学期病休していた方なので、メンタルがまだ心配で副校長が副担任として入っている。また、2年のクラスが荒れていて副校長が入っていたのだが、3年に入ることになったので、2年のクラスが、また、落ち着かなくなってきた。また、副校長の事務仕事がどんどんたまり、体調が心配。
- ・昨年度もあったが、他教員への業務の負担が増えることや、生徒へかけられる手が少なくなることが影響すると思う。

●配慮を要する子どもたちへの支援不足。対応が追い付かない。

- ・緊急対応する人がいなく、何かあった時、大変。
- ・担任の負担になっている。授業をしながら、クラスに数人いる支援が必要な児童に配慮をするのは大変困難である。
- ・クラスアシスタントの未配置は、持病をもつ生徒の見守りに関するものであったため、担当学年の教員が交代でついたり、本来別業務の学生ボランティアを配置したりするなどでしのいだ。

長時間過密労働はさらに深刻化。教職員のいのちと生活を守り、教職員不足の早急な解消を

●欠員、未配置の「穴」を穴埋めするために長時間過密労働を強いられる現場。病休ドミノともいえる教職員への影響。

- ・教員の持ち時数が増えた。
- ・算数少人数の教諭が担任として9/1から勤務している。算数少人数は講師が補っている。
- ・教員の代わりに講師が入っているので、校務分掌を担当させられない。一人当たりの負担量が増している。
- ・専科が一人足りない状況。引率も一人一人負担増。補教も一人一人負担増。分掌も一人一人負担増。
- ・家庭科講師を見つけるのは非常に難しい。技術科教員が家庭科の授業を観察したり、指導助言したりと、仕事量が増えている。
- ・学年の教員が家庭科の授業を行なっている（中学校。免許はなし）。そのため、担当授業数が増加している。
- ・学担に副校長が入っている。業務増加が心配。
- ・理科の教員が心身の不調のため休職中。代替はなし。
- ・理科専科は産休代替が見つからず、担任が理科の授業をする、または一部の学級では低学年担任が教科担任を兼ね、授業をする。算数少人数は時間講師で対応している。教科担任になった低学年担任の負担も増えている。時間講師も正規の算数教科の担当者ができていない授業計画や備品教材管理があり、必要に迫られてやらざるを得ない。振

- 替があっても超過勤務は100時間以上になり、年間の祝日休日長期休暇をオーバーしている。
- 学年で4クラスを見るので、生活指導、行事の運営等、共有する時間が常にとられ、勤務時間外の仕事が増えた。
- 学年主任、教務主任への負担が多く、若手教員への指導が全く行き届かないため、さらに問題への対応が増えている。
- 教務主任、生活指導主任等が、学年主任を兼務していて、軽減もない分、余裕がなく、家庭や子育てとの両立に悩む方々が増えた。退職を考えている30代、40代もいる。
- 管理職も補教に入るため、様々な問題の報告や相談をする時間が、勤務時間外になる。
- 学習指導につながる校内研究も、負担になる状況で後回しになり、教員の指導力も低下している。
- 算数の少人数指導ができなくなった。他の教員の校務分掌の負担が増えた。
- 担任がいいため通知表の入力は誰がするのか。どう評価するのか。など、担任の事務的なことを誰がするのか。
- 時間割調整、補強、校務分担の増など。通知表処理（1学期末）で相当バタバタした。
- 校務の負担が大きくなったり、指導が増えたりして、会議の時間や事務作業の時間がとれない。
- 支援学級教員への負担増加、校務分掌を他教員でカバーしている。
- 学年職員の負担増。
- 学年、学校、分掌の仕事が他の教員に割り当てられ大変である。
- 超のつく小規模校、児童数は少なくとも、教員一人当たりの校務分掌は多く、主任軽減がないと、主任はかなりハードワークとなる。学年のことも何もかも一人でやるので。
- 初任者の指導がしっかり行えない。1年目につけなくてはならない指導力・授業力が十分に身に付くか心配。
- 講師対応なので、授業には穴が空いていないが、校務分掌は、みんなで埋めあっている。ただでさえ大変なのに、欠員分もやらなきゃならない。
- 他教科の先生が、サポート役として入らざるを得なくなり、空き時間がなくなり、負担となった。
- 学校そのものは、なんとかまわっていますが、教員が1名少ないので、ほかのことにしわよせがいています。
- 周りの先生達でフォローしているが、長期間になってくるとだいぶ負担が増え、勤務時間内の業務が厳しくなり、教材研究の時間も取れなくなるため、指導にも影響が出る。
- 特定の教員への負担が大きくなっている。
- 補教が増えて空き時間がなくなった
- 時数増の負担。
- 授業持ち時数の過多。
- 教員の負担が増えた。
- 校務分掌を代わりに負担している。
- 副担任が足りない。学年の仕事の分担が増える。
- 負担がきつい。
- 既存教員の負担増。
- 一人あたりの校務分掌が増えた。
- 担任の授業数の増加。
- 校務など、残っている人にしわよせがいきはじめている。
- 教員（担任）のもち時数が増加。教材研究、授業の準備も増加。
- 時間わりの変更、他教員の負担増
- 現在も引き続き探しているが、何十人に断られ、見つからない状況です。仕事、分担のしわよせ、負担が大きく、大変な状況。
- 1学期はあった担任の空き時間がなくなった
- 健康状態の悪化

●産休代替教職員、病休代替時間講師が足りない。教職員のなり手不足が深刻。安心して休めない労働環境で、いのちが脅かされている。

- 子育てや、体調不良の時も担任が休暇を取れない。
- 校務分掌の負担が増えた。また、9月中に新たに病休に入った方もおり、副校長が担任に入っている。校長が授業をすることもあるなど、一人も欠けられない状況になっていて、あと半年あるのに不安。
- 補教に入れる教員がおらず、体調不良等で休むと学年で回さざるを得ない。
- 補教体制が組めないため、外部への研修も行きづらい。また、休暇も取りづらい。
- 1学期は算数少人数が講師だったため、時間割の編成が大変。出張が2名重なりと補教を入れにくい状況だった。

●職場に1人しかいない立場の人が欠員という事態。

- とにかく養護教諭がないのは、基本的に大変です。養護パートさん週4日が見つかったからはだいぶ楽になった

が、具合の悪い子や怪我をした子を職員室で空いている先生や事務さんがみていた。いまは養護パートさんがいるので、児童の対応はだいぶしてもらっているが、健康診断の調整やこの時期だと就学時健診のことは生活指導部の教員や入学委員会の教員が中心となって行っている。

- ・事務職員が退職。そのまま欠員。これは購入できるか？この制度は使えるのか？の相談がしばらく支障が出ている。

6. 自由意見欄 (51 回答) 一部抜粋

- ・欠員はいないが、病休などは校内で補教対応している。
- ・根本的にだいぶ前から教員が足りないと言ってきたはず。今に始まったことではない。文科省、都教委が放置したツケを現場教員に丸投げするとは誠に許しがたいこと。
- ・上記の他、1学期は「①理科の教員が足りないということがあった。年度当初より講師を探すのに苦労しており、特別加配を申し出て新採用教員1名の配置を受けたが、4月中に欠員の出た近隣校に配置換えとなり異動、1学期間他の理科教員がほぼ空き無しで授業に入るなど大きな負担を強いられた。ようやく時間講師が決まり2学期から授業に入ってもらっている。②今年度より保健体育科の教員が育休に入り、代替として新規教員が入ったが、その代替教員が5月より病休、一学年の保健体育の授業を管理職や特別支援学級の同教科講師が入るなどして対応した。代替教員は夏休みから復帰している」ということがあった。いずれも2学期から解決しているが、一部の教員が過大な負担を追うこととなり大変であった。
- ・これから産休に入る人がいるが、代替が見つかっていない。
- ・12月からの育児休暇の代替が決まっていない
- ・栄養教諭です。給食センターと学校に所属していて、仕事内容が多く、残業が月70時間になります。加配をお願いしたい所ですが、へき地ということもあり、なかなか叶いません。後任が入るかどうかも不透明で、業務が滞らないか心配です。
- ・ありがたいことに欠員は出ていないが、本来ならとれるはずの軽減講師は人が足りなくて4月から見つかっていない。
- ・今年度はタイミングがよく代替の方が見つかり、欠員なしで運営できている。男性職員の育休代替だったが、ギリギリまで募集をかけることができず、決まってからも僅かな期間での引き継ぎとなって負担が大きかったのでは、と心配になった。また、保護者や児童への通知もぎりぎりになり、信頼関係を保つことにも配慮が必要だった。
- ・昨年度は年度途中で正規教員(学級担任)が病休に入り、副校長が担任代理、専科や他学年の教員が教科を掛け持ちして担当することで対応したが、安心して学習できる環境を提供できたかといえば、否。さらに、ご家族や本人の体調、都合で休みを取る方や出張にでる方がいると、補教に入る教員の選択肢がなく、日々対応にあたり、年度末にむけ精神的にも追い込まれた。
- ・現在の労働時間、勤務内容、環境を考えれば、1年間、誰も休まず、全員が元気に勤められるはずがない。自分や家族の体調の悪いときくらいは、安心して休める職員体制を取るためにも、正規職員を各校もう一人でも配置していただきたい。少しでも安心感やゆとりがあれば、深刻になる前に心や体を休め長期休暇、退職に至る方を減らせるかとも思う。
- ・年度当初より英語科の教員が1名育休中。代替の教員を募るも見つからず、教員免許のない教員を採用することに。しかし、教育実習を含め、教員免許にかかわる単位をもっていないので、一人で指導できるまでには至っていない。そのため、少人数授業が展開できていない。また、2学期より、英語科1名がさらに産休に入り、こちらについても代替教員を募るが見つからなかった。そのため、アシスタントティーチャーを講師に変えて対応した。一方、スクールサポートスタッフをアシスタントティーチャーに変えようとしたが、市から変更を認められなかった。
- ・補教不足も深刻。小中一貫ですが、上の学年とは時間が異なり、先生の人数はあてにならない。課題のある児童の対応として、他学級の担任があいている時間にあるクラスにかなければいけない状況もあり、全くアキがない状況。
- ・教員が働きやすいようにいつも動いていただきありがとうございます。ただ、現場は常に人が足りない状況で、その負担が全て学級担任にかかっている。これからも善処していただくと助かる。
- ・外国語専科いないまま。4年と1年の担任が学期末に1週間ダウンし、協力してしのいだ。
- ・そもそも1日の教員の空きコマ数を確保し、義用務時間内に授業準備や業務に当たれる時間の確保をしてほしいと思う。そのためにもギリギリの人数でまかない、欠員が出たら逼迫する状況でなく、教員数をさらに増やし、余裕をもたせることが必要だと思う。
- ・病休の教員は生活指導主幹でもあるため、代替の教員が見つからないのは、他の教員の負担も大きく困っている。学期末に図工専科がやめた。対応に追われている。
- ・採用人数を増やして解決してほしい。または教員志望の大学生などボランティアを雇ってほしい。休み時間など、学年フロアに大人が多いほうが良い。
- ・まずは正規の教員が足りていない。時間講師で対応している教科があるが、教科担任制を目指すならば中学校並みに専科としての教員数を確保しないと難しい。小学校では担任をしながらいろいろな学年の成績を出さねばならず、

負担が大きい。また、時間講師も教科を丸ごと担当すると年間計画から準備、片付け、テスト問題作成、成績評価までと備品教材管理の仕事が膨大である。時間講師の授業以外の時間はほとんど1時間につき10～15分のみで必要に迫られて勤務しているが、超過勤務になっている。

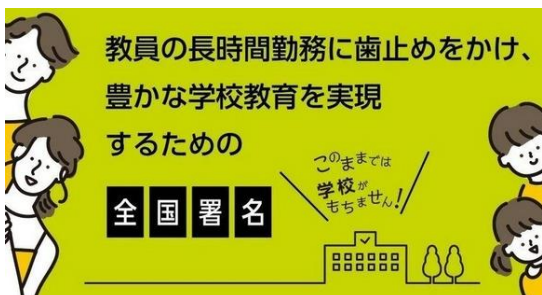
- ・初任者が初めの1週間ほど出勤した後、病休になっているため、非常勤教員が担任をしている。初任者は短期間しか病休が取れないということで、2学期以降はまだわからない状況。
- ・もう一人、1年の担任もつわりがひどいが、無理をして休みを取らないようにしていて、つらそうである。音楽専科が病休。外国語専科はいないまま。新規採用教員が病休のため、算数少人数が担任に。3月に出産した教員が、人手が足りないため7月に復帰して新採のクラスの担任になる予定。
- ・とにかく若手教員を指導したり、メンタルケアをしたりする立場である、中堅への負担が大きい。中堅に余裕がないことで、職員室の雰囲気も変わる。メンター制度も全く機能していない。研修が増えただけである。
- ・結局、現在、初任者の担任2名が休みがちであり、そのフォローとそのクラスの児童への学習指導も、毎日考えなければならない学年主任もいる。
- ・教員の不足は、悪循環しか生まないため対策が必要。
- ・病休の原因が校長なのに、校長は個人的な問題として区に報告している。
- ・教員不足は深刻な問題。学校に来る子どもがいるのに十分な教育を行えない。
- ・病気休暇を3ヶ月とっているが、その期間の講師等を探していないように思う。少し入ったりもしているが足りず、少人数算数等の教員も入って回している。
- ・欠員2名でさらに宿泊の引率で2名抜け、欠員4名で回しているときがありました。教員の負担増だけでなく、安全管理上も限界があります。
- ・そもそも40人学級でもつらいのに、人が足りなくて常に綱渡りをしている、しかも生徒にはそこに気遣わせないように、という現実を少しでも多くの人に知ってもらいたい。
- ・土曜授業の回数減。特に教職を「外から見て」魅力的に感じさせる必要がある。
- ・10月からもう一人特別支援学級で育休、12月は担任もまた育休予定であるが、いずれも代替要員が見つからない。講師には請け負えない校務も多く、しわよせが大きい。また担任が適応障害で授業ができず、副校長はそのクラスに入っているため、校内全体の業務も滞っており、講師探しもするのは難しい。
- ・現状欠員はありませんが、生徒へのきめ細やかな対応のためにはもっと多くの職員がいたらいいなと思いました。
- ・ベテランでも病気になる先生の多さ、教員志望者の少なさ、若い人の病気と退職。これは、教育の危機だと思います。
- ・仕事内容が減らないのうたう働き方改革、無理のある教科担任制導入、毎月の服務研修、授業観察や3年次までの研修、ギガ、やらなければならない事が多すぎます。
- ・教師は本来、魅力的な仕事のはず。教師になりたい！ って思える人が増える教育現場にしたい。
- ・欠員にはすぐ対応してほしい
- ・未配置教職員がいらないだけでなく、副校長補佐以下、校務支援システム担当教員、スクールサポートスタッフ、スクールカウンセラー、特別支援教室専門員、司書、給食支援員、不登校対応巡回指導員、学校学生インターンシップ等、多くの教職員を配置していただき、昨年度と比較しても、労働・勤務時間は短くなり、円滑な学校経営と毎日の学校生活が送られている。
- ・もっと早くに欠員補充を望みたかった。ようやく10月からの勤務をお願いできた。
- ・講師が見つからないことを学校の責任にするのではなく、適切なバックアップがほしい。
- ・技術家庭科は専任を配置できるよう、教員の定員を増やしてほしい。
- ・4月当初数週間、主に理科を担当してもらおう（主幹軽減などで）講師が見つからず、他の教科を先にすすめたり、担任が担当したりしていましたが、その後配置されました。
- ・全体的にもっと教員数が欲しい。一人が抱える仕事量が多すぎる（特に担任の先生方）休むのも大変。
- ・短い病休でも人が配置される制度にしたい。
- ・他はもっと大変（病休複数名）ときく、どうしたら改善するのか？
- ・1学期は、支援員が1名未配置だったが、9月1日から配置されている。
- ・公教育をなんとか維持していただきたい。人はちゃんと配置してほしい。
- ・臨時的任用教員が見つからず、時間講師に切り替えて探しているが、それも見つからない。都教委での人員確保をお願いしたい。都教委は、人員を探すための副校長の負担や教員や生徒への影響を重く受け止め、改善を図って欲しい。
- ・わたしたちの仕事が授業だけでないのがこうなるとよくわかる。
- ・産休に入るのはかなり前からわかっていたのに代替教員が見つからない。このこと自体大問題。処遇が改善されれば、産休代替教員をやりたいという人も増えると感じる。
- ・昨年度も産休代替の先生が、100件電話しても見つからず、大変だった。こういう状態が続くと、現場の教員に負担がかかり、さらに倒れてしまうようなことも考えられる。もっと教員を増やしていただきたい。

- ・欠員はいないが、教科担任制を学年で回しているため時間割調整がとても大変。それに時間をとられる。専科教員が時間講師のため、その調整も大変。負担が増えた。
- ・特別支援教室（巡回指導）の教員の欠員が出て、個別指導が中心という性質から、講師の先生にお願いすることが難しい。担任や保護者対応が結局放課後になる事も多いので、授業だけ講師の先生に…ということは現実的に難しく、教員の負担軽減につながらないため、他の対応を考えて欲しいです。
- ・たまたま9月から講師の先生が決まりホッとしている。
- ・1学期後半は高学年の先生方は、空き時間も少なく大変だったと思う。
- ・誰でも良いわけではないが、教員不足の影響は大きい。
- ・昨年度は育休代替がいなかったため、副校長が入っていた。
- ・とにかく人手が足りず、先生達に余裕がない。子どもたちとじっくり向き合い、子どもたちに人との関わることの楽しさを実感できるような学校になってほしい。”
- ・4月～6月、介護休暇の担任が出ることがわかっていたので、その頃、算数少人数の教員が担任の代理をし、算数は学級指導になりました。10月1日現在は解消されている。これでは十分な教育活動ができない。繰り返すが早急に人員を増やしてほしい。
- ・こうなることは分かっていたのになんの手当もないのはおかしい。教員の魅力をなくしている行政が悪い。

アンケートは前回同様、都内約1900校の内、**約10分の1の学校からの集計**にも関わらず、未配置・未充足・欠員が**107**も報告されました。教職員が足りないことにより、子どもの教育活動に大きな支障が出ています。教育の質や機会が保障できなくなり、必要な支援が削られていきます。「すべて国民はひとしくその能力に応じた教育を受ける機会を与えられなければならない」という教育基本法に反する状態です。急増する不登校やいじめに対して、十分な対応ができず、子どものいのちと安全を脅かしています。年度途中の欠員の原因は、圧倒的に病休と産育休の代替不足です。欠員による過重労働は教職員の心身を壊し、さらに病休が増えるという負の連鎖に陥っています。病休の代替が講師でしか補えない制度も問題です。時間外勤務や複数校兼務等によって、教職員の働き方がいっそう過酷になっている現状も、教職員のなり手不足を加速させる要因です。今すぐに教育予算を増やし、教員の持ち時数を減らして、給特法改正により処遇を改善し、正規教職員を大幅に増やすことを国や都が行うことが急務です。

子どもの学び、教職員のいのちとくらしを守れ！

「教員の長時間勤務に歯止めをかけ、豊かな学校教育を実現するための全国署名」にご協力を！



調査結果は、都教組の本部・各支部での要請に活用し、今後も子どもと教育を守る東京連絡会等、各地域の教育・市民団体や保護者と共に、教職員不足問題についてとりくんでいきます。安心・安全な学校教育の保障と教育条件整備、教職員の処遇改善を求める声をあげていきましょう。

■お問い合わせ■東京都教職員組合（都教組）

都教委要請文書や詳しいアンケート結果はこちらの組合員専用サイトで閲覧できます。



ともに声をあげよう！

あなたもぜひ都教組へ

組合加入・労働相談はこちら

☎03-3230-3891

検索

都教組



<https://tokyouso.jp/>

都教組 HP